

今日のトピック アジア通貨の動向（2018年9月）

人民元は下落に歯止め、ルピーやルピアは下落続く

ポイント1 人民元は下落に歯止め

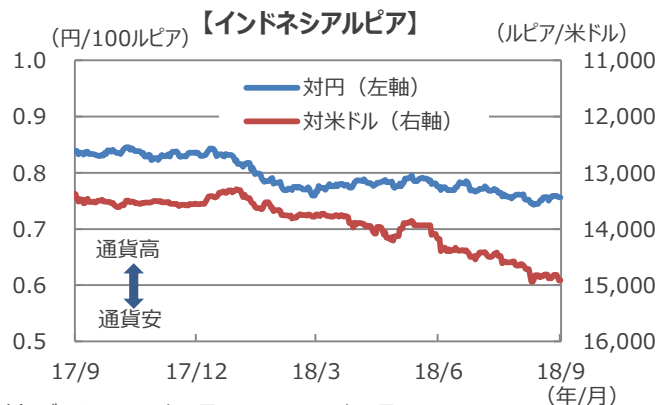
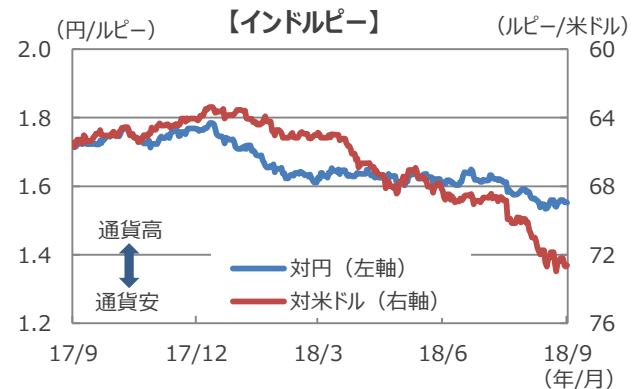
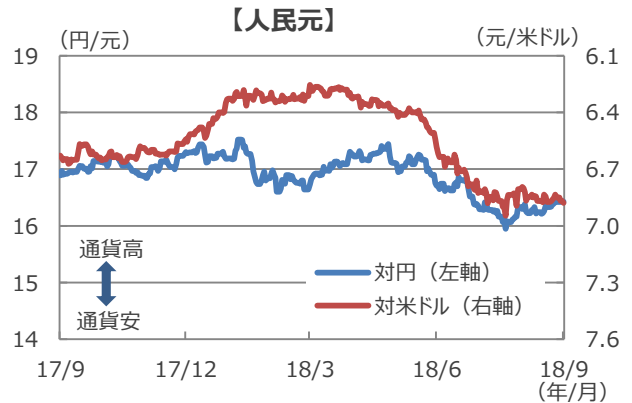
中国当局が元安抑止策

- 人民元は米中貿易摩擦の激化により4月以降対米ドルで下落基調が続いてきましたが、1米ドル＝7.0元に近づいてきた局面で、中国当局から元安抑止策が打ち出され、持ち直しました。8月半ばに一時6.9元台まで売られた人民元は、足元では6.8元台で推移しています。また、中国の李克強首相は9月19日の講演で、人民元の一段安を望まない考えを示しました。中国政府は、更なる元安を望まない水準として7.0元を意識していると考えられます。中国当局のコントロールにより、人民元はレンジ内で推移するとみられます。

ポイント2 インドルピーは最安値圏

インドネシアルピアも98年以来安値

- アジアの新興国通貨は総じて軟調に推移しています。米利上げが継続するなか、8月に起きたトルコショックにより、新興国通貨全般に下落圧力が強まったことが背景です。9月半ばのトルコの大規模利上げを契機に多くの新興国通貨は反発しましたが、インドやインドネシアなど経常赤字国のアジア通貨は目立った買い戻しがみられず、対米ドルでインドルピーは最安値圏、インドネシアルピアも98年につけたアジア通貨危機以来の水準で推移しています。
- インドルピーとインドネシアルピアは、政治要因等も嫌気されています。インドやインドネシアは来春に総選挙や大統領選挙を控えており、政治の不透明感や、選挙目的の財政支出拡大が懸念されています。更に、インドでは一部金融機関の資金調達難に対する懸念も通貨安の材料となった模様です。このため両国の通貨は当面上値が重そうです。



(注) データは2017年9月26日～2018年9月26日。
対米ドル(右軸)は逆目盛。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ここもチェック! 2018年9月27日 人民元の対米ドルレート『7.0』元の壁
2018年9月14日 トルコの金融政策 (2018年9月)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。